

「安心・活力・発展プラン2005」 第4回安心部会 委員発言要旨

日時:平成27年1月28日(水)13:00~15:00

場所:トキハ会館5階「ローズ」

No.	項目	発言要旨
1	子育て支援	病児・病後児保育の充実はありがたいが、一番課題となるのは人の確保。県としても人の確保に力を入れてほしい。
2		病院の看護師や企業の保育士が、病児・病後児保育に有償ボランティアで従事しようとした場合、兼業禁止で止められることがある。子育て支援の取り組みに「企業の参画」という言葉を入れ、このような活動に対する企業の理解を広げてほしい。
3		児童虐待の取り組みについて、医療機関等だけでなく、保育園、認定こども園との連携もしっかり記載してほしい。
4	高齢者支援	無認可ケア施設等の急増により、高齢者が劣悪な環境に住まわされるケースが生じている。「高齢者が安心・安全に暮らせる住まいの確保」については、このような問題も踏まえた記述にしてほしい。
5	健康づくり	県民健康づくり運動の展開については、住民組織が草の根運動として進めていくことが必要。
6	障がい者支援	障がい者の地域移行を促進するため、障がい福祉圏域毎に1箇所は24時間365日体制の公的相談支援体制を整備してほしい。
7		障がい者に対する理解促進策として、地域住民との交流だけでなく、もう少し踏み込んで、障がい者への正しい理解の普及を入れたほうがよいのではないか。
8		障がい者支援の政策目標として、地域生活移行率日本一を掲げられないか。
9	医療	指定難病でない方々は情報源が乏しいと聞く。指定難病でない方への支援等の周知に加え、広く一般県民に対して病気を持っている方への理解、病気に関する周知を図ってほしい。
10		「県立精神科病院の設置に向けた検討」という基本的方向については、もっと明確に、主な取り組み欄に「設置」を盛り込めないか。
11	環境	環境政策を進めるにあたっては、温泉をはじめとした資源保護という視点を基盤に置いた上で進めてほしい。
12		希少野生動植物等の保護に加えて、それらが生息する場所や生態系の保護という視点を一言入れておいてほしい。
13		「循環を基調とする地域社会の構築」については、森から川、そして海までを1つの水系として県民総参加で活動するという視点がほしい。
14		「恵まれた環境の未来への継承」の各施策(1)~(4)の項目を再整理してほしい。

No.	項目	発言要旨	
15	環境	ごみゼロ運動は県民の間にしっかり定着したと思う。「ごみゼロおおいた作戦の推進」は卒業して、豊かな環境を守り育む運動に発展させた方が良いのではないか。	
16	治安対策	「声かけ」は、福祉分野ではいい意味で使用している場合もある。「声かけ事案」という犯罪の表現を工夫できないか。	
17		「子ども・女性・高齢者を犯罪被害から守る」という記述があるが、例えば知的障がい者の女性が性的被害を受けることもある。障がい者も含めた記述にした方が良いのではないか。	
18	食の安全	食の安全について、昨今話題の異物混入の記載がない。小売店や飲食店など消費者が直接触れる(口にす)場所の対策を検討しておくべきと思う。	
19	食育	食育について、弁当の記載は目立つが、全体として何をしたいのかよくわからない。項目の立て方も含め再検討してほしい。	
20		民間飲食業と連携し、例えば学校給食メニューを県内の飲食店で提供すれば食育を身近に感じるきっかけになるのではないか。	
21	人権	障がい者差別の解消は人権の項目にも記載すべきではないか。	
22	地域づくり	政策として、「地域社会の維持・活性化」では弱いのではないか。現状を踏まえると、「地域社会の再構築」というような表現が適当ではないか。	
23		小規模集落応援隊等の活動につき、集落に入った後、高度な連携を進めていくところまで踏み込んで記載すべきではないか。	
24		中山間地域の交通対策として、例えば小水力やバイオマスなどによる発電と電気自動車の組み合わせなど、もっと夢のある、チャレンジするような取り組みを盛り込んでも良いのではないか。	
25		「つながりを実感する地域社会の実現」について、制度本位ではなくニーズ本位で考えていくという方向性を示す必要があるのではないか。	
26		民間不動産業者等と連携した、障がい者や生活困窮者の住まいの確保に対する支援が必要。	
27		「つながりを実感する地域社会の実現」に、障がい者や引きこもりの方に対する中間的就労の取り組みを盛り込めないか。	
28		「つながりを実感する地域社会の実現」に、アートの活用により地域のつながりを創出するという方向性を入れてほしい。	
29		「空き家の利活用の推進」について、定年退職後のセカンドハウスとしての利用など、具体例を交えた記述に工夫できないか。	
30		防災・減災	福祉避難所を多数指定しているが、訓練や研修などの支援が足りないのではないか。

No.	項目	発言要旨
31	防災・減災	実際に災害が起きた場合、例えば福祉施設の車は災害時の優先車両にするなど、実情に即した対応が必要。
32		地域の実情に応じた個々の避難計画を策定できるよう力を注いでほしい。
33	農林水産業	耕作放棄地や遊休農地は今後どうしても増えていく。農地として再活用できないような農地への対応もある程度考えておいたほうが良いのではないか。
34		農産漁村集落のリーダーやマネジメントできる人材を育成すべき。
35	青少年の健全育成	引きこもりとか社会的不適應の子ども、若者への支援をどこかにまとめて、施策として位置付けてほしい。